

1 今年度の取組状況と取組目標に対する自己評価

自己評価の基準：【A】 十分達成できた 【B】 概ね達成できた 【C】 あまり達成できなかった

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>学習指導</p> <p>課題を見出し、解決策を提示できる、思考力・判断力・表現力を養う授業への改善</p> <p>【B】</p>	<p>① 定期考査や模擬試験の結果分析を踏まえた教科会における課題と学力向上策の明確化</p> <p>② 主体的で対話的な深い学びを実現するための授業研究の実施</p> <p>③ 教員相互の授業参観の実施</p> <p>④ 生徒の科学的思考力を高め、疑問点を自ら解決する態度の涵養</p>	<p>① リアテンドを使用した学力分析を各自が定期考査後に行い、学力向上プランを参考に授業改善を実施するよう指示した。実施できない教員が少数いた。模擬試験の結果分析会を実施した。</p> <p>② 対話的な学びを取り入れた授業が多くみられた。『主体的な学び』の実現には課題がみられた。</p> <p>③ 授業参観プログラムへ5名の先生が参加した。年次研修の研究授業には多くの教員が参観した。他教科の教員も見学し参考にすることができた。</p> <p>④ 科学部の部活動指導により科学の甲子園に参加した。</p>
<p>進路指導</p> <p>キャリア教育の充実による一段高い進路意識の保持</p> <p>【A】</p>	<p>① 生徒が主体的に進路探究活動を行うための進路行事の内容充実</p> <p>② 各種検定の実施や朝学習の充実など、スモールステップで進路意識を高める取組の充実</p> <p>③ 海外学校間交流推進校として姉妹校交流を進め、主体的に他者理解を深める取組の拡充</p>	<p>① 探究テキストを活用した第1、2学年の総合的な探究の時間を計画的に行い、グループごとのテーマ研究を充実させた。</p> <p>1学年は入門期 days を行い、探究の手法を学んだ。</p> <p>② 海外学校間交流事業を利用し、英語検定の1、2学年全員受験を実施した。準2級以上合格者は大幅に増えた。3学年全員受検を検討する。</p> <p>④ 姉妹校締結のために北京の高校と交流を行った。また中国からの高校生を本校で一日体験させる機会を設けた。本校からも姉妹校を訪れた。</p>
<p>生活指導</p> <p>統一した生活指導方針による校則遵守の組織的な指導と生徒の主体性の</p>	<p>① あらゆる学校行事で実行委員公募を行うなど特別活動への生徒の主体的な取組の促進</p> <p>② 部活動顧問による生徒指導の強化、学</p>	<p>① 前年度から生徒の委員を公募し、生徒が主体的に行事を企画運営し、HADO・歩こう会、体育祭・文化祭・クラスマッチを学年ごとに実施し、工夫して実行する意欲や態度を育成した。</p>

<p>向上</p> <p style="text-align: center;">【B】</p>	<p>習活動と両立できる活動計画立案・実施</p> <p>③ 教育相談の手法を活用した学年と生活指導の連携による系統的な生徒指導の取組</p>	<p>② 吹奏楽部は入学式で校歌紹介を行った。近隣施設や保育所にて演奏を行った。町会お祭りへの協力など地元との交流を深めた。</p> <p>③ 養護教諭、自立支援担当教員、スクールカウンセラーと生活指導部、学年担任を中心に、人間関係に起因する問題や発達に関する問題に対応してきた。今後も一層連携した指導体制を継続する。</p>
<p>心身の健康づくり</p> <p>生徒一人一人の健康状態や体力の現状を的確に把握する、個に応じた健康指導の充実</p> <p style="text-align: center;">【A】</p>	<p>① 面談週間など学校への帰属感を高める生徒の心身の健康状態に即した教育相談の推進</p> <p>② 体力向上に向けた様々な取組の推進</p>	<p>① 教育相談委員会を5回実施し、生徒情報を共有した。様々な特性を持った生徒情報を相談し対応した。スクールカウンセラーの面談予約数は昨年度に比べて減少した。</p> <p>② 体力向上へ向け、体育の授業内で取り組んでいる。データを自ら入力することで、主体的に課題へ取り組む姿勢がみられた。</p>
<p>募集・広報活動</p> <p>本校の特色ある教育活動への理解を深め入学を希望する中学生の増加</p> <p style="text-align: center;">【A】</p>	<p>① ホームページの内容充実、学校案内のレイアウトや内容の刷新</p> <p>② 入学者のいない学校や地区の上級学校講話や校外合同説明会等への参加</p>	<p>① ホームページの更新回数を増やし、部活動の写真を充実させた。中学生の7割以上が高校のホームページを見て学校選びをするため、一層内容を充実させる。</p> <p>② 外部での説明会に多く参加した。近隣中学校で模擬授業を実施した。本校での学校見学会と個別相談会で6377名と増加した。生徒主体の見学会を行った。</p>
<p>学校経営・組織体制</p> <p>生徒の自己実現の支援に全力を傾注する学校経営の組織的な展開</p> <p style="text-align: center;">【B】</p>	<p>① 企画調整会議を中心とした分掌部会や学年会、教科会の連携の一層強化</p> <p>② 会議運営の効率化をはじめとした計画的な業務の進行管理</p> <p>③ ライフ・ワーク・バランスの実現を目指す、業務が偏在しない、同僚性の高い職場づくり</p>	<p>① 企画調整会議を中心とし、分掌・学年と連携を図った。教育課程検討委員会で新1学年の選択科目について決定した。</p> <p>② 企画調整会議の円滑な運営を図りながら、主幹会議を必要に応じて開催し学校運営に参加した。</p> <p>② 勤務時間外の残業者は減少した。一部多い教員がいる。男性が育児休業を取得しやすい環境が整備された。</p>

2 数値目標と達成数値

数値目標	達成数値
○ 家庭学習時間を第1学年は1.5時間、第2学年は2時間	○第1学年0.88時間、第2学年1.26時間
○ 国公立大学+難関私立大学+GMARCH合格者延べ人数100名	○184名
○ 大学入学共通テストにおける教科・科目ごとの平均点が全国平均の95%以上	○達成17科目、未達成5科目
○ 英語検定準2級以上取得200名	○英検一次合格379名
○ 学校説明会参加者延べ人数5000名	○6377名
○ 推薦入試倍率4倍	○4.00倍
○ 一般入試倍率2倍	○2.11倍
○ 部活動加入率95%	○82.0%

3 次年度に向けた課題と対応策

学習指導では、課題を見出し、解決策を提示できる、思考力・判断力・表現力を養う授業への改善を目標とし、その方策として①学力分析を教員自らが全員で行い、学力向上プランを活用した授業を行う。②ICTの活用をより図りながら生徒が主体的・協働的に課題を発見し解決する授業を行う。を示した。対話的な学びに取り組む授業が増えた一方、家庭学習時間が減少している。入学時の一段高い進路希望を保持させるためには、家庭学習時間を増やすために、主体的な学びへと導く必要がある。学力分析を行いながら、学力プランの確実な実行が課題である。

進路指導では、探究活動とおとしたキャリア教育の充実と、一段高い進路意識の保持を目指してきた。探究活動のさらなる充実を図り、主体的に取り組む楽しさを時間できるよう指導する。第3学年の進路実績においては、例年以上に高い希望の進路を実現することができた。諦めない心と向上心を育成できた。今後は、合格者だけに目を向けるのではなく、なぜ不合格になっているのかに目を向け、今後の白指導に活かしていく必要がある。

生活指導では、校則遵守の組織的な指導と、生徒の主体性の育成を図ってきた。学校行事を通じて帰属意識を醸成することができたが、ルールやマナーの遵守を徹底できない生徒もいた。生徒自身が、人から言われることなくルールやマナーについて、考え、行動できるように促すことが必要である。

保健指導では、生徒一人一人の健康状態や体力の現状を的確に把握、個に応じた健康指導の充実を図ってきた。特別な支援を必要とする生徒が増加しているため、教育相談委員会等において、養護教諭やスクールカウンセラーを交えた情報交換を密に行い、支援に繋げることができた。今後は、年5回の情報共有の場を充実する。

募集・広報活動では、本校の特色ある教育活動への理解を深め入学を希望する中学生の増加を目指し、活動してきた。生徒会や庶務係の生徒が、中学生やその保護者に本校のよさを直接説明することで、本校のよさが周知できた。今後は、生徒主体の募集活動の更なる推進を行う必要がある。

学校経営・組織体制では、学校経営の組織的な展開を目指してきた。担任と各分掌が目指すものを一致させ、どのように行動したら効率的な取組となるのかを検討、実践に繋げていく必要がある。また、働き方改革や業務の効率化を目的とした、ペーパーレス会議等を実践できた。今後は、会議の内容を分掌内で伝達できる方法についてさらなる充実を図る必要がある。